

基本計画書

基本計画									
事項	記入欄								備考
計画の区分	研究科の専攻の設置								
フリガナ設置者	ガッコウメイジノ メイジョウダガク 学校法人名城大学								
フリガナ大学の名称	メイジョウダガクダクイン 名城大学大学院 (The University of Meijo Graduate School)								
大学本部の位置	愛知県名古屋市天白区塩釜口一丁目501番地								
大学の目的	本大学院は、教育基本法及び学校教育法の規定するところに従い、学術の理論及び応用を教授研究し、その深奥を究め、もって文化の進展に寄与することを目的とする。								
新設学部等の目的	薬学研究科は、薬学領域における学術高度化に貢献でき、国民の健康維持・増進と医療の発展をより一層推進できる独創的で創造的な高い研究力、新しい職能を開拓できる高度な専門性と技術・指導力を兼ね備えた薬学のスペシャリストの養成を目的とする。								
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地	
	薬学研究科 (Graduate School of Pharmacy)	年	人	年次人	人		年 月 第 年次	愛知県名古屋市天白区 八事山150番地	
	薬学専攻 (Division of Clinical Pharmacy)	4	4	—	16	博士 (薬学)	平成24年4月 第1年次		
	計		4	—	16				
同一設置者内における変更状況 (定員の移行、名称の変更等)	薬学研究科 薬学専攻 (博士後期課程) (廃止) (△10) ※平成24年4月学生募集停止								【基礎となる学部】 薬学部 薬学科
教育課程	新設学部等の名称		開設する授業科目の総数				卒業要件単位数		
	薬学研究科 薬学専攻		講義	演習	実習	計	30単位		
教員組織の概要	学部等の名称		専任教員等					兼任教員	
			教授	准教授	講師	助教	計	助手	人
	新設		人	人	人	人	人	人	人
	薬学研究科 薬学専攻 (博士課程)		14 (14)	14 (14)	0 (0)	0 (0)	28 (28)	0 (0)	1 (1)
	計		14 (14)	14 (14)	0 (0)	0 (0)	28 (28)	0 (0)	1 (1)
	既設		17 (17)	10 (10)	0 (0)	0 (0)	27 (27)	0 (0)	11 (11)
	法学研究科		17 (17)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	17 (17)	0 (0)	0 (0)
	経営学研究科		19 (19)	5 (5)	0 (0)	1 (1)	25 (25)	0 (0)	18 (18)
	経済学研究科		18 (18)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	19 (19)	0 (0)	0 (0)
	経済学専攻 (修士課程) (博士後期課程)		18 (18)	6 (6)	0 (0)	0 (0)	24 (24)	0 (0)	1 (1)
経済学専攻 (修士課程) (博士後期課程)		15 (15)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	15 (15)	0 (0)	0 (0)	

教員組織の概要	既設分	理工学研究科	数学専攻 (博士前期課程)	9 (9)	6 (6)	1 (1)	0 (0)	16 (16)	0 (0)	6 (6)	大学全体
			(博士後期課程)	9 (9)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	9 (9)	0 (0)	0 (0)	
			情報工学専攻 (修士課程)	10 (10)	5 (5)	0 (0)	2 (2)	17 (17)	0 (0)	1 (1)	
			電気電子工学専攻 (博士前期課程)	11 (11)	6 (6)	0 (0)	1 (1)	18 (18)	0 (0)	1 (1)	
			材料機能工学専攻 (修士課程)	11 (11)	6 (6)	0 (0)	2 (2)	19 (19)	0 (0)	3 (3)	
			機械システム工学専攻 (修士課程)	13 (13)	6 (6)	0 (0)	0 (0)	19 (19)	0 (0)	7 (7)	
			交通科学専攻 (修士課程)	11 (11)	5 (5)	0 (0)	0 (0)	16 (16)	0 (0)	3 (3)	
			建設システム工学専攻 (修士課程)	8 (8)	4 (4)	0 (0)	2 (2)	14 (14)	0 (0)	2 (2)	
			環境創造学専攻 (修士課程)	6 (6)	5 (5)	0 (0)	1 (1)	12 (12)	0 (0)	2 (2)	
			建築学専攻 (修士課程)	8 (8)	8 (8)	0 (0)	0 (0)	16 (16)	0 (0)	4 (4)	
			電気電子・情報・材料工学専攻 (博士後期課程)	29 (29)	7 (7)	0 (0)	0 (0)	36 (36)	0 (0)	0 (0)	
			機械工学専攻 (博士後期課程)	24 (24)	10 (10)	0 (0)	0 (0)	34 (34)	0 (0)	0 (0)	
		社会環境デザイン工学専攻 (博士後期課程)	21 (21)	2 (2)	0 (0)	0 (0)	23 (23)	0 (0)	0 (0)		
		農学研究科	農学専攻 (修士課程)	19 (19)	14 (14)	3 (3)	3 (3)	39 (39)	0 (0)	0 (0)	
			(博士後期課程)	19 (19)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	19 (19)	0 (0)	0 (0)	
		都市情報学研究科	都市情報学専攻 (修士課程)	18 (18)	7 (7)	0 (0)	0 (0)	25 (25)	0 (0)	0 (0)	
			(博士後期課程)	14 (14)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	14 (14)	0 (0)	0 (0)	
人間学研究科	人間学専攻 (修士課程)	10 (10)	3 (3)	0 (0)	0 (0)	13 (13)	0 (0)	4 (4)			
総合学術研究科	総合学術専攻 (博士前期課程)	10 (10)	3 (3)	0 (0)	2 (2)	15 (15)	0 (0)	5 (5)			
	(博士後期課程)	9 (9)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	10 (10)	0 (0)	0 (0)			
大学・学校づくり研究科	大学・学校づくり専攻 (修士課程)	5 (5)	2 (2)	0 (0)	0 (0)	7 (7)	0 (0)	4 (4)			
法務研究科	法務専攻 (専門職学位課程)	13 (13)	3 (3)	0 (0)	0 (0)	16 (16)	0 (0)	23 (23)			
計		216 (216)	104 (104)	4 (4)	14 (14)	338 (338)	0 (0)	85 (85)			
合計		230 (230)	118 (118)	4 (4)	14 (14)	366 (366)	0 (0)	86 (86)			
教員以外の職員の概要	職 種	専 任		兼 任		計		大学全体			
	事 務 職 員	人		人		人					
	技 術 職 員	8 (8)		3 (3)		11 (11)					
	図 書 館 専 門 職 員	9 (9)		0 (0)		9 (9)					
そ の 他 の 職 員	1 (1)		8 (8)		9 (9)						

		計	235 (235)	42 (42)	277 (277)						
校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計	借用地 【校舎敷地】 貸主：蒲郡市 借用期間 平成16年6月1日 から25年10か月間 200.00[m ²]					
	校舎敷地	205,470.26 m ²	0.00 m ²	0.00 m ²	205,470.26 m ²						
	運動場用地	174,372.29 m ²	0.00 m ²	0.00 m ²	174,372.29 m ²						
	小 計	379,842.55 m ²	0.00 m ²	0.00 m ²	379,842.55 m ²						
	そ の 他	156,935.74 m ²	0.00 m ²	0.00 m ²	156,935.74 m ²						
等	合 計	536,778.29 m ²	0.00 m ²	0.00 m ²	536,778.29 m ²						
校 舎		専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計						
		197,259.41 m ² (178,214.64 m ²)	0.00 m ² (0.00 m ²)	0.00 m ² (0.00 m ²)	197,259.41 m ² (178,214.64 m ²)						
教室等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	大学全体					
	141 室	106 室	135 室	26 室 (補助職員 4 人)	5 室 (補助職員 0 人)						
専任教員研究室		新設学部等の名称		室 数		申請研究科全体					
		薬学研究科		28 室							
図書・ 設備	新設学部等の名称	図書 [うち外国書] 冊	学術雑誌 [うち外国書] 種	電子ジャーナル [うち外国書]	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標 本 点	大学全体での 共用分 図書 [57,346] 学術雑誌 [150] 電子ジャーナル [0] 視聴覚資料 [500] 機械・器具 [9,670]			
	薬学研究科	59,481[39,056] (59,481[39,056])	730[603] (730[603])	1,333[1,333] (1,333[1,333])	747 (747)	46 (46)	0 (0)				
	計	59,481[39,056] (59,481[39,056])	730[603] (730[603])	1,333[1,333] (1,333[1,333])	747 (747)	46 (46)	0 (0)				
図書館		面積		閲覧座席数		収納可能冊数		大学全体			
		13,513.73 m ²		1,528 席		1,080,000 冊					
体育館		面積		体育館以外のスポーツ施設の概要				大学全体			
		8,042.41 m ²		テニスコート		プール					
経費の 見積り 及び維持 方法の 概要	経 費 の 見 積 り	区分	開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	申請研究科全体	
		教員1人当り研究費等		478千円	478千円	478千円	478千円	—	—		
		共同研究費等		5,509千円	5,509千円	5,509千円	5,509千円	—	—		
		図書購入費	132千円	132千円	132千円	132千円	132千円	—	—		
	設備購入費	2,191千円	2,191千円	2,191千円	2,191千円	2,191千円	—	—			
学生1人当り納付金		第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次				
		990千円	860千円	860千円	860千円	—千円	—千円				
学生納付金以外の維持方法の概要			私立大学等経常費補助金、資産運用収入、雑収入等								
既設 大学等 の 状 況	大学の名称		名城大学大学院							〔基礎学部〕 法学部 法学科 応用実務法学科	
	学部等の名称		修業 年限	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	学位又 は称号	定員 超過率	開設年度		所在地
	大学院法学研究科 法律学専攻		年	人	年次 人	人		倍			愛知県名古屋 市天白区 塩釜口一丁 目 501 番地
	修士課程		2	15	—	30	修士(法学)	0.60	昭和42年度		
博士後期課程		3	8	—	24	博士(法学)	0.24	昭和44年度			

既設大学等の状況	大学院経営学研究科 経営学専攻										[基礎学部] 経営学部 経営学科 国際経営学科
	修士課程	2	30	—	60	修士(経営学)	0.95	平成13年度			
	博士後期課程	3	3	—	9	博士(経営学)	0.77	平成15年度			
	大学院経済学研究科 経済学専攻										[基礎学部] 経済学部 経済学科 産業社会学科
	修士課程	2	10	—	20	修士(経済学)	0.70	平成12年度			
	博士後期課程	3	3	—	9	博士(経済学)	0.44	平成14年度			
	大学院理工学研究科 数学専攻										[基礎学部] 理工学部 数学科 情報工学科 電気電子工学科 材料機能工学科 機械システム工学科 交通機械工学科 建設システム工学科 環境創造学科 建築学科
	博士前期課程	2	8	—	16	修士(理学)	0.75	平成14年度			
	博士後期課程	3	2	—	6	博士(理学)	0.33	平成7年度			
	情報工学専攻										
	修士課程	2	30	—	60	修士(工学)	1.38	平成14年度			
	電気電子工学専攻										
	博士前期課程	2	20	—	40	修士(工学)	1.47	平成14年度			
	材料機能工学専攻										
	修士課程	2	30	—	60	修士(工学)	1.56	平成14年度			
	機械システム工学専攻										
	修士課程	2	20	—	40	修士(工学)	2.67	平成14年度			
	交通科学専攻										
	修士課程	2	16	—	32	修士(工学)	1.46	平成14年度			
	建設システム工学専攻										
修士課程	2	20	—	40	修士(工学)	0.70	平成14年度				
環境創造学専攻											
修士課程	2	10	—	20	修士(工学)	0.55	平成14年度				
建築学専攻											
修士課程	2	16	—	32	修士(工学)	1.28	平成14年度				
電気電子・情報・材料工学専攻											
博士後期課程	3	10	—	30	博士(工学)	0.26	平成5年度				
機械工学専攻											
博士後期課程	3	5	—	15	博士(工学)	0.26	平成4年度				
社会環境デザイン工学専攻											
博士後期課程	3	5	—	15	博士(工学)	0.20	平成4年度				
大学院農学研究科 農学専攻											[基礎学部] 農学部 生物資源学科 応用生物化学科 生物環境科学科
修士課程	2	20	—	40	修士(農学)	1.87	昭和48年度				
博士後期課程	3	5	—	15	博士(農学)	0.26	昭和51年度				

愛知県名古屋市天白区塩釜口一丁目501番地

平成23年4月から、交通科学科を交通機械工学科へ名称変更。

既設大学等の状況	大学院薬学研究科 薬学専攻 博士後期課程	3	10	—	30	博士(薬学)	0.50	昭和46年度	愛知県名古屋市中白区八事山150番地	〔基礎学部〕 薬学部 薬学科(4年制) 医療薬学科(4年制) ・平成24年4月から学生募集停止予定(薬学専攻(博士後期課程))。
	大学院都市情報学研究科 都市情報学専攻 修士課程 博士後期課程	2 3	8 4	— —	16 12	修士(都市情報学) 博士(都市情報学)	1.12 0.41	平成11年度 平成13年度	岐阜県可児市虹ヶ丘四丁目3番の3	〔基礎学部〕 都市情報学部 都市情報学科
	大学院人間学研究科 人間学専攻 修士課程	2	8	—	8	修士(人間学)	0.25	平成23年度		〔基礎学部〕 人間学部 人間学科
	大学院総合学術研究科 総合学術専攻 博士前期課程 博士後期課程	2 3	8 4	— —	16 12	修士(学術) 博士(学術)	0.18 0.33	平成14年度 平成14年度	愛知県名古屋市中白区	
	大学院大学・学校づくり研究科 大学・学校づくり専攻 修士課程	2	10	—	20	修士(教育経営)	0.60	平成18年度	塩釜口一丁目501番地	
	大学院法務研究科 法務専攻 専門職学位課程	3	40	—	130	法務博士(専門職)	0.93	平成16年度		〔基礎学部〕 法学部 法学科 応用実務法学科 ・平成22年4月から、入学定員減(50→40)。
	大 学 の 名 称	名城大学								
学 部 等 の 名 称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地		
法学部	年	人	年次人	人		倍				
法学科	4	360	—	1,440	学士(法学)	1.06	平成11年度	愛知県名古屋市中白区塩釜口一丁目501番地		
応用実務法学科	4	170	—	680	学士(法学)	1.01	平成11年度			
経営学部						1.14				
経営学科	4	195	—	780	学士(経営学)	1.13	平成12年度			
国際経営学科	4	90	—	360	学士(経営学)	1.15	平成12年度			

既設大学等の状況	経済学部						1.18			
	経済学科	4	185	—	740	学士(経済学)	1.17			
	産業社会学科	4	100	—	400	学士(経済学)	1.20			
	理工学部						1.06			
	数学科	4	85	—	340	学士(理学)	1.10	平成12年度	愛知県名古屋 市天白区 塩釜一丁目 501番地	<ul style="list-style-type: none"> ・平成23年4月から、交通科学科を交通機械工学科へ名称変更。 ・平成20年度入学試験から、学科別及び数学科を除く8学科をひと括りとした「系別募集」を実施。(情報工学科44人、電気電子工学科44人、材料機能工学科28人、機械システム工学科44人、交通機械工学科39人、建設システム工学科39人、環境創造学科28人、建築学科40人) ・系別募集は、1年次では、学科別の配属がないため、系単位で算出した。
	情報工学科	4	101	—	404	学士(工学)	1.15	平成16年度		
	電気電子工学科	4	101	—	404	学士(工学)	1.03	平成12年度		
	材料機能工学科	4	67	—	268	学士(工学)	1.08	平成12年度		
	機械システム工学科	4	101	—	404	学士(工学)	1.13	平成12年度		
	交通機械工学科	4	91	—	364	学士(工学)	1.05	平成12年度		
	建設システム工学科	4	91	—	364	学士(工学)	0.85	平成12年度		
	環境創造学科	4	67	—	268	学士(工学)	1.13	平成12年度		
	建築学科	4	95	—	380	学士(工学)	1.04	平成12年度		
	工学系(1年次)	4	306	—	1,224	学士(工学)	1.06	平成12年度		
農学部						1.20				
生物資源学科	4	100	—	400	学士(農学)	1.15	平成11年度			
応用生物化学科	4	100	—	400	学士(農学)	1.20	平成11年度			
生物環境科学科	4	100	—	400	学士(農学)	1.24	平成17年度			
薬学部										
薬学科(6年制)	6	250	—	1,500	学士(薬学)	1.07	平成18年度	愛知県名古屋 市天白区 八事山 150 番地	<ul style="list-style-type: none"> ・平成18年4月から薬剤師養成のための薬学教育6年制への移行に伴い入学定員を次のとおり変更。 薬学部医療薬学科 125名(収容定員500名) 薬学科125名(収容定員500名) ⇒薬学部薬学科(6年制) 250名(収容定員1,500名) 	
医療薬学科(4年制)	4	—	—	—	学士(薬学)	—	平成8年度			
薬学科(4年制)	4	—	—	—	学士(薬学)	—	平成8年度			
都市情報学部										
都市情報学科	4	200	—	800	学士 (都市情報学)	1.11	平成7年度	岐阜県可児 市虹ヶ丘四 丁目3番の3		
人間学部										
人間学科	4	200	—	800	学士 (人間学)	1.16	平成15年度	愛知県名古屋 市天白区 塩釜一丁目 501番地		
附属施設の概要	名称：薬学部薬草園 目的：生薬学・薬用植物学実習及び系統維持標本園 所在地：愛知県春日井市鷹来町字菱ヶ池 4311-2 設置年月：昭和51年3月 規模等：3,487.02 m ²									

学校法人名城大学 設置認可等に関わる組織の移行表

平成23年度	入学定員		平成24年度	入学定員	変更事由
名城大学					
法学部 法学科	360		法学部 法学科	360	
応用実務法学科	170	→	応用実務法学科	170	
経営学部 経営学科	195		経営学部 経営学科	195	
国際経営学科	90		国際経営学科	90	
経済学部 経済学科	185		経済学部 経済学科	185	
産業社会学科	100		産業社会学科	100	
理工学部 数学科	85		理工学部 数学科	85	
情報工学科	145		情報工学科	145	
電気電子工学科	145		電気電子工学科	145	
材料機能工学科	95		材料機能工学科	95	
機械システム工学科	145		機械システム工学科	145	
交通機械工学科	130		交通機械工学科	130	
建設システム工学科	130		建設システム工学科	130	
環境創造学科	95		環境創造学科	95	
建築学科	135		建築学科	135	
農学部 生物資源学科	100		農学部 生物資源学科	100	
応用生物化学科	100		応用生物化学科	100	
生物環境科学科	100		生物環境科学科	100	
薬学部 薬学科 (6年制)	250		薬学部 薬学科 (6年制)	250	
都市情報学部 都市情報学科	200		都市情報学部 都市情報学科	200	
人間学部 人間学科	200		人間学部 人間学科	200	
名城大学大学院					
法学研究科 法律学専攻(M)	15		法学研究科 法律学専攻(M)	15	
法律学専攻(D)	8	→	法律学専攻(D)	8	
経営学研究科 経営学専攻(M)	30		経営学研究科 経営学専攻(M)	30	
経営学専攻(D)	3		経営学専攻(D)	3	
経済学研究科 経済学専攻(M)	10		経済学研究科 経済学専攻(M)	10	
経済学専攻(D)	3		経済学専攻(D)	3	
理工学研究科 数学専攻(M)	8		理工学研究科 数学専攻(M)	8	
数学専攻(D)	2		数学専攻(D)	2	
情報工学専攻(M)	30		情報工学専攻(M)	30	
電気電子工学専攻(M)	20		電気電子工学専攻(M)	20	
材料機能工学専攻(M)	30		材料機能工学専攻(M)	30	
機械システム工学専攻(M)	20		機械システム工学専攻(M)	20	
交通科学専攻(M)	16		交通科学専攻(M)	16	
建設システム工学専攻(M)	20		建設システム工学専攻(M)	20	
環境創造学専攻(M)	10		環境創造学専攻(M)	10	
建築学専攻(M)	16		建築学専攻(M)	16	
電気電子・情報・材料工学専攻(D)	10		電気電子・情報・材料工学専攻(D)	10	
機械工学専攻(D)	5		機械工学専攻(D)	5	
社会環境デザイン工学専攻(D)	5		社会環境デザイン工学専攻(D)	5	
農学研究科 農学専攻(M)	20		農学研究科 農学専攻(M)	20	
農学専攻(D)	5		農学専攻(D)	5	
薬学研究科 薬学専攻(D) (3年制)	10		<u>0</u>		平成24年度より学生募集停止
			<u>薬学研究科 薬学専攻(D) (4年制)</u>	<u>4</u>	薬学教育6年制に対応した研究科の専攻の設置(届出)
都市情報学研究科 都市情報学専攻(M)	8	→	都市情報学研究科 都市情報学専攻(M)	8	
都市情報学専攻(D)	4		都市情報学専攻(D)	4	
人間学研究科 人間学専攻(M)	8		人間学研究科 人間学専攻(M)	8	
総合学術研究科 総合学術専攻(M)	8		総合学術研究科 総合学術専攻(M)	8	
総合学術専攻(D)	4		総合学術専攻(D)	4	
大学・学校づくり研究科	10		大学・学校づくり研究科	10	
大学・学校づくり専攻(M)	10		大学・学校づくり専攻(M)	10	
法務研究科 法務専攻(P)	40		法務研究科 法務専攻(P)	40	

教育課程等の概要															
(大学院 薬学研究科 薬学専攻 (博士課程))															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門科目	環境衛生科学特論	1前		4		○			3	4				兼1	オムニバス
	環境衛生科学特殊研究Ⅰ	1後		5				○	3	4					
	環境衛生科学特殊研究Ⅱ	2通		5				○	3	4					
	環境衛生科学特殊研究Ⅲ	3通		5				○	3	4					
	環境衛生科学特殊研究Ⅳ	4通		5				○	3	4					
	医療情報科学特論	2前		4		○			3	1				兼1	オムニバス
	医療情報科学特殊研究Ⅰ	1通		5				○	3	1					
	医療情報科学特殊研究Ⅱ	2後		5				○	3	1					
	医療情報科学特殊研究Ⅲ	3通		5				○	3	1					
	医療情報科学特殊研究Ⅳ	4通		5				○	3	1					
	病態解析科学特論	1前		4		○			2	2					オムニバス
	病態解析科学特殊研究Ⅰ	1後		5				○	2	2					
	病態解析科学特殊研究Ⅱ	2通		5				○	2	2					
	病態解析科学特殊研究Ⅲ	3通		5				○	2	2					
	病態解析科学特殊研究Ⅳ	4通		5				○	2	2					
	薬物治療科学特論	2前		4		○			2	1				兼2	オムニバス
	薬物治療科学特殊研究Ⅰ	1通		5				○	2	1					
	薬物治療科学特殊研究Ⅱ	2後		5				○	2	1					
	薬物治療科学特殊研究Ⅲ	3通		5				○	2	1					
	薬物治療科学特殊研究Ⅳ	4通		5				○	2	1					
	薬物動態科学特論	3前		4		○			2	2				兼1	オムニバス
	薬物動態科学特殊研究Ⅰ	1通		5				○	2	2					
	薬物動態科学特殊研究Ⅱ	2通		5				○	2	2					
	薬物動態科学特殊研究Ⅲ	3後		5				○	2	2					
	薬物動態科学特殊研究Ⅳ	4通		5				○	2	2					
小計 (25 科目)		—	0	120	0			—	12	10	0	0	0	兼5	—
関連科目	医療英語特論	1・2・3		2		○								兼1	集中
	臨床薬学研修	1・2・3		2				○	2						集中
	海外臨床研修	1・2・3		2				○		4					集中
	小計 (3 科目)		—	0	6	0			—	2	4	0	0	0	兼1
合計 (28 科目)		—	0	126	0			—	14	14	0	0	0	兼6	—

学位又は称号	博士（薬学）	学位又は学科の分野	薬学関係
修了要件及び履修方法		授業期間等	
<p>〔履修方法〕</p> <p>(1) 学生は、4年以上在学し、次に定める方法により、30単位以上を修得しなければならない。</p> <p>(2) 専修分野のいずれかの特論1科目を専修科目とし、必ず履修しなければならない。</p> <p>(3) 専修科目の他に、特論（関連科目含む）2科目を選択履修し、専修科目と合わせて3科目、10単位以上および特殊研究Ⅰ～Ⅳ（特殊演習・実験）を履修しなければならない。</p> <p>(4) 専修科目の特殊研究の担当者を指導教員として、学生は、授業科目の選定および学位論文の作成その他研究一般について、指導を受けるものとする。</p> <p>(5) 博士の学位論文は、専修科目について提出するものとする。</p> <p>〔修了要件〕</p> <p>本研究科に4年以上在学し、30単位以上を修得し、かつ必要な研究指導を受けたうえ、本研究科が行う博士論文の審査及び試験に合格しなければならない。</p>		1学年の学期区分	2学期
		1学期の授業期間	15週
		1時限の授業時間	90分

教育課程等の概要															
(大学院 薬学研究科 薬学専攻 (博士後期課程))															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
研究指導科目	薬化学特殊研究	1・2・3通	—	—	—			○	2	2					※演習
	天然物化学特殊研究	1・2・3通	—	—	—			○	2						※演習
	薬品分析学特殊研究	1・2・3通	—	—	—			○							※演習
	薬品合成化学特殊研究	1・2・3通	—	—	—			○	1						※演習
	薬品物理化学特殊研究	1・2・3通	—	—	—			○		1					※演習
	薬剤学特殊研究	1・2・3通	—	—	—			○	3	2					※演習
	衛生化学特殊研究	1・2・3通	—	—	—			○	2	2					※演習
	生薬学特殊研究	1・2・3通	—	—	—			○	1						※演習
	生化学特殊研究	1・2・3通	—	—	—			○	2	1					※演習
	薬理学特殊研究	1・2・3通	—	—	—			○	2						※演習
	臨床薬学特殊研究	1・2・3通	—	—	—			○							※演習
	生体機能分析学特殊研究	1・2・3通	—	—	—			○	1	1					※演習
合計 (12 科目)		—	—	—	—	—			16	9	0	0	0	0	—
学位又は称号		博士 (薬学)				学位又は学科の分野				薬学関係					
修了要件及び履修方法						授業期間等									
<p>[履修方法]</p> <p>(1) 学生は、3年以上在学し、次に定める方法により、履修しなければならない。</p> <p>(2) 研究指導科目の中から1科目を選定し、これを学生の専修科目とする。</p> <p>(3) 専修科目の研究指導を担当する教員を当該学生の指導教員とし、学生は、学位論文の作成その他研究一般について、その指導を受けるものとする。</p> <p>(4) 博士の学位論文は、専修科目について提出するものとする。</p> <p>[修了要件]</p> <p>本研究科に3年以上在学し、専修分野について研究指導を受け、かつ本研究科が行う博士論文審査及び試験に合格しなければならない。</p>						1 学年の学期区分			2 学期						
						1 学期の授業期間			1 5 週						
						1 時限の授業時間			9 0 分						

教育課程等の概要

(薬学部 薬学科)

科目 区分	授業科目の名称	配当 年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
全 学 共 通 教 育 部 門	歴史と文化			2											開講せず
	文学と人間	1 前		2		○									兼1
	芸術文化論	1 後		2		○									兼1
	欧米文化論			2											開講せず
	アジア文化論			2											開講せず
	文化人類学の世界			2											開講せず
	哲学			2											開講せず
	心の科学	1 前・後		2		○									兼2
	宗教の世界	1 後		2		○									兼1
	日本国憲法	1 前・後		2		○									兼1
	法と社会	1 前・後		2		○									兼2
	経済と社会	1 前		2		○									兼1
	経営と社会	1 前・後		2		○									兼2
	政治と社会			2											開講せず
	国際化時代の人間と社会	1 後		2		○									兼1
	社会学	1 前・後		2		○									兼2
	都市と人間			2											開講せず
	ジェンダーと社会	1 前・後		2		○									兼2
	人間と社会の演習			2											開講せず
	地球と宇宙	1 前・後		2		○									兼2
	物質の成り立ち	1 後		2		○									兼1
	生命の多様性			2											開講せず
	数と論理			2											開講せず
	現象と論理	1 前		2		○									兼1
	人間と環境	1 前		2		○				1					
	英語基礎Ⅰ (リーディング)			1											開講せず
	英語基礎Ⅰ (コミュニケーション)			1											開講せず
	英語基礎Ⅱ (リーディング)			1											開講せず
	英語基礎Ⅱ (コミュニケーション)			1											開講せず
	英語初級Ⅰ－Ⅰ (リーディング)	1 前		1		○									兼1
	英語初級Ⅰ－Ⅰ (コミュニケーション)	1 前		1		○									兼1
	英語初級Ⅰ－Ⅱ (リーディング)	1 後		1		○									兼1
	英語初級Ⅰ－Ⅱ (コミュニケーション)	1 後		1		○									兼1
	英語初級Ⅱ－Ⅰ (リーディング)	1 前		1		○									兼1
	英語初級Ⅱ－Ⅰ (コミュニケーション)	1 前		1		○									兼1
	英語初級Ⅱ－Ⅱ (リーディング)	1 後		1		○									兼1
	英語初級Ⅱ－Ⅱ (コミュニケーション)	1 後		1		○									兼1
	英語中級Ⅰ (リーディング)	1 前		1		○									兼3
	英語中級Ⅰ (コミュニケーション)	1 前		1		○									兼3
	英語中級Ⅱ (リーディング)	1 後		1		○									兼3
英語中級Ⅱ (コミュニケーション)	1 後		1		○									兼3	
英語上級Ⅰ (リーディング)			1											開講せず	
英語上級Ⅰ (コミュニケーション)			1											開講せず	
英語上級Ⅱ (リーディング)			1											開講せず	
英語上級Ⅱ (コミュニケーション)			1											開講せず	

科目 区分	授業科目の名称	配当 年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験 ・ 実 習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手		
全 学 共 通 教 育 部 門	フランス語入門Ⅰ			1											開講せず
	フランス語入門Ⅱ			1											開講せず
	フランス語初級Ⅰ			1											開講せず
	フランス語初級Ⅱ			1											開講せず
	フランス語応用Ⅰ			1											開講せず
	フランス語応用Ⅱ			1											開講せず
	フランス語オーラルコミュニケーション（初級）Ⅰ			1											開講せず
	フランス語オーラルコミュニケーション（初級）Ⅱ			1											開講せず
	フランス語オーラルコミュニケーション（中級）Ⅰ			1											開講せず
	フランス語オーラルコミュニケーション（中級）Ⅱ			1											開講せず
	ドイツ語入門Ⅰ			1											開講せず
	ドイツ語入門Ⅱ			1											開講せず
	ドイツ語初級Ⅰ			1											開講せず
	ドイツ語初級Ⅱ			1											開講せず
	ドイツ語応用Ⅰ			1											開講せず
	ドイツ語応用Ⅱ			1											開講せず
	ドイツ語オーラルコミュニケーション（初級）Ⅰ			1											開講せず
	ドイツ語オーラルコミュニケーション（初級）Ⅱ			1											開講せず
	ドイツ語オーラルコミュニケーション（中級）Ⅰ			1											開講せず
	ドイツ語オーラルコミュニケーション（中級）Ⅱ			1											開講せず
	中国語入門Ⅰ			1											開講せず
	中国語入門Ⅱ			1											開講せず
	中国語初級Ⅰ			1											開講せず
	中国語初級Ⅱ			1											開講せず
	中国語応用Ⅰ			1											開講せず
	中国語応用Ⅱ			1											開講せず
	中国語オーラルコミュニケーション（初級）Ⅰ			1											開講せず
	中国語オーラルコミュニケーション（初級）Ⅱ			1											開講せず
	中国語オーラルコミュニケーション（中級）Ⅰ			1											開講せず
	中国語オーラルコミュニケーション（中級）Ⅱ			1											開講せず
ハングル入門Ⅰ			1											開講せず	
ハングル入門Ⅱ			1											開講せず	
ハングル初級Ⅰ			1											開講せず	
ハングル初級Ⅱ			1											開講せず	
ハングル応用Ⅰ			1											開講せず	
ハングル応用Ⅱ			1											開講せず	
ハングルオーラルコミュニケーション（初級）Ⅰ			1											開講せず	

科目 区分	授業科目の名称	配当 年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教授	講 師	助 教	助 手		
全 学 共 通 教 育 部 門	ハングルオーラルコミュニケーション (初級) II			1											開講せず
	ハングルオーラルコミュニケーション (中級) I			1											開講せず
	ハングルオーラルコミュニケーション (中級) II			1											開講せず
	スペイン語初級 I			1											開講せず
	スペイン語初級 II			1											開講せず
	コンピュータリテラシー	1 前		2		○									兼1
	コンピュータシステム			2											開講せず
	情報活用リテラシー	1 前		2				○							兼1
	情報処理入門			2											開講せず
	プログラミング入門			2											開講せず
	情報社会と倫理	1 前・後		2		○									兼1
	健康・スポーツ科学 I	1 前	1					○	1			1			兼1
	健康・スポーツ科学 II	1 後	1					○	1			1			兼1
	健康・スポーツ科学 III	2 前		1				○	1			1			兼1
	健康・スポーツ科学 IV			1											開講せず
	健康・スポーツ科学 V			2											開講せず
	健康科学論 I			2											開講せず
	健康科学論 II			2											開講せず
教養演習 I	1 前		2				○							兼4	
教養演習 II	1 後		2				○	1						兼1	
小計 (102 科目)		—	2	136	0			—	3	0	0	1	0	兼35	
教 育 部 準 備 門	基礎統計学	1 後	1.5			○			1						
	基礎化学 I	1 前	1.5			○			2						
	基礎物理学	1 前	1.5			○				2					
	基礎生物学	1 前	1.5			○				1					
	小計 (4 科目)	—	6	0	0				3	3	0	0	0	0	—
専 門 薬 学 教 育 部 門	物理化学 I	1 後	1.5			○				1					
	物理化学 II	2 前	1.5			○				1					
	物理化学 III	2 前	1.5			○				1					
	基礎化学 II	1 前	1.5			○			1	2					
	有機薬化学 I	1 後	1.5			○			2						
	有機薬化学 II	2 前	1.5			○			3						
	有機薬化学 III	2 後	1.5			○			3						
	機能形態学 I	1 前	1.5			○			1						
	機能形態学 II	1 後	1.5			○						1			
	機能形態学 III	2 前	1.5			○			1						
	生化学 I	1 後	1.5			○				1					
	生化学 II	2 前	1.5			○			1						
	生化学 III	2 後	1.5			○				1					
	基礎薬学英語 I	2 前	1.5			○				3		1			
	基礎薬学英語 II	3 後	1.5			○			1	2		1			
	薬局方試験法	2 後	1.5			○				1					
	医薬資源化学	2 前	1.5			○				2					
	微生物学	2 前	1.5			○			1						
分子生物学 I	2 前	1.5			○				1						
分子生物学 II	2 後	1.5			○			1							
医療制度論	2 前	1.5			○			1							
薬用植物と生薬	2 前	1.5			○			1	1		1				

科目 区分	授業科目の名称	配当 年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教授	講 師	助 教	助 手		
専 門 薬 学 教 育 部 門	構造解析学	2後	1.5			○				2					
	免疫学	2後	1.5			○			1	1					
	薬物動態学Ⅰ	2後	1.5			○				1					
	薬物動態学Ⅱ	3前	1.5			○			1						
	生理活性分子	2後	1.5			○			1						
	製剤学Ⅰ	2後	1.5			○			1						
	製剤学Ⅱ	3前	1.5			○			1						
	分析化学	2前	1.5			○			1						
	生物有機化学	3前	1.5			○				1					
	感染予防学	3前	1.5			○				2					
	公衆衛生学	3前	1.5			○						1			
	衛生化学Ⅰ	3前	1.5			○			1			1			
	衛生化学Ⅱ	3後	1.5			○			1						
	薬の効き方Ⅰ	3前	1.5			○				1					
	薬の効き方Ⅱ	3後	1.5			○			1						
	疾患と治療Ⅰ	2後	1.5			○			1						
	疾患と治療Ⅱ	3前	1.5			○				1					
	疾患と治療Ⅲ	3前	1.5			○			1						
	疾患と治療Ⅳ	3後	1.5			○			1			1			
	薬剤学	3前	1.5			○			1						
	医薬品化学	3前	1.5			○				1					
	臨床微生物学	3後	1.5			○				1					
	環境科学	2後	1.5			○			1	1					
	医薬品情報	3後	1.5			○			1	1					
	製剤開発論	3後	1.5			○				1					
	製剤設計学	3後	1.5			○			1			1			
	医療法規	3後	1.5			○			1						
	和漢医薬学	4前	1.5			○			1	1					
	薬物投与設計	4前	1.5			○			1						
	化学系基礎実習	2前	1						○	2	4				集中
	化学系応用実習	2後	1						○	4	1		2		集中
	生物系基礎実習	2後	1						○	3	5		1		集中
	生物系応用実習	3前	1						○	3	5				集中
	物理系基礎実習	3前	1						○	2	4		1		集中
	物理系応用実習	3後	1						○	2	3				集中
	分析系基礎実習	2前	1						○	3	3		1	2	集中
分析系応用実習	3後	1						○	2	2		2		集中	
実務実習Ⅰ	5	10						○	2	2				集中	
実務実習Ⅱ	5	10						○	2	2				集中	
運動生理学	2後			1.5		○								兼1	
臨床心理学	2後			1.5		○			1						
栄養学	3前			1.5		○				1					
臨床コミュニケーション	3後			1.5		○						1			
運動療法学	3後			1.5		○						1			
病態栄養学	3後			1.5		○				1					
臨床倫理学	4前			1.5		○				1					
介護・看護・緩和医療	4前			1.5		○			1						
基礎薬学演習Ⅰ	2前			1				○	6	5		1		オムニバス	
基礎薬学演習Ⅱ	2後			1				○	7	4				オムニバス	
基礎薬学演習Ⅲ	3前			1				○	5	5				オムニバス	
基礎薬学演習Ⅳ	3前			1				○				1			

科目 区分	授業科目の名称	配当 年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手		
教育 部門 専門 薬学	基礎薬学演習Ⅴ	3 後		1			○		2	3					オムニバス
	基礎薬学演習Ⅵ	3 後		1			○		3	3		2			オムニバス
	基礎薬学演習Ⅶ	4 前		1			○		1	2					オムニバス
小計 (76 科目)		—	104.5	19	0	—			25	24	0	9	2	兼1	—
統 合 型 薬 学 教 育 部 門	薬学入門Ⅰ	1 前	4			○			7	11		2		兼14	オムニバス
	薬学入門Ⅱ	1 後	4			○			10	7					オムニバス
	薬物治療学	4 前	12			○			12	9					オムニバス
	文献講読セミナー	4 後	2.5			○			24	16		8	2		オムニバス
	基礎薬学総論	4 後	4			○			16	16		3			オムニバス
	実務実習事前講義・演習	4 後	5			○	○		7	2		1			オムニバス ※演習
小計 (6 科目)		—	31.5	0	0	—			28	24	0	8	2	兼14	—
薬学 アド バン スト 教 育 部 門	カルテを読む	5 前		1		○			1						
	臨床薬局学Ⅰ	5 前		1		○				1					
	臨床薬局学Ⅱ	5 前		1		○			1						
	救命救急・院内感染予防	5 前		1		○			1						
	臨床栄養療法学	5 前		1		○			1						
	臨床薬剤学	5 前		1		○									H23 年度開講せず
	インターンシップ	5 前		1				○							集中
	機能分子探索化学	5 前		1		○			1	2					オムニバス
	機能分子合成化学	5 前		1		○			3	1		1			オムニバス
	薬用資源制御学	5 前		1		○			3	1		1			オムニバス
	臨床薬物治療学	5 前		1		○			3						オムニバス
	臨床薬物動態学	5 前		1		○			3	4		1			オムニバス
	臨床病態制御学	5 前		1		○			3	2		1			オムニバス
	薬物機能解析学	5 前		1		○			3	2		1			オムニバス
	環境生物制御学	5 前		1		○			3	3		2			オムニバス
	医療英語コミュニケーション	5 前		1		○								兼1	
	臨床医薬品情報学	5 前		1		○			2	1					オムニバス
	医療の最前線	6 後		1		○			1						
	薬剤師と疾病予防	6 後		1		○									H23 年度開講せず
社会と薬剤師	6 後		1		○									H23 年度開講せず	
薬剤師の専門性	6 後		1		○				1						
薬剤師をとりまく最近の話題	6 後		1		○									H23 年度開講せず	
小計 (22 科目)		—	0	22	0	—			24	17	0	6	0	兼1	—
教育 部門 総合 薬学	薬学卒業研究・演習	6 前	3				○	○	24	16		8	2		※演習
	薬学特別講義	6 後	3			○			28	24		8			オムニバス
	小計 (2 科目)	—	6	0	0	—			28	24	0	8	2	0	—
関 連 部 門 教 育	医用電子工学概論				1.5										H23 年度開講せず
	医用電子工学概論実習				1										H23 年度開講せず
	放射化学				1.5										H23 年度開講せず
	放射化学実習				1										H23 年度開講せず
	臨床実習				3										H23 年度開講せず
小計 (5 科目)		—	0	0	8	—			0	0	0	0	0	0	—
合計 (217 科目)		—	150	177	8	—			29	24	0	9	2	兼51	—
学位又は称号		学士 (薬学)			学位又は学科の分野				薬学関係						

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
・必修科目 ①全学共通教育部門 2単位 ②薬学準備教育部門 6単位 ③専門薬学教育部門 104.5単位 ④統合型薬学教育部門 31.5単位 ⑤総合薬学教育部門 6単位 計 150単位 ・選択科目 ①全学共通教育部門 13単位以上 ②専門薬学教育部門 13単位以上 ③薬学アドバンスト教育部門 10単位以上 計 36単位以上 合計 186単位以上 ※全学共通教育科目群について、備考欄に「開講せず」と記載している67科目は、履修指導上、薬学部在生には開講していない。	1学年の学期区分	2学期
	1学期の授業期間	15週
	1時限の授業時間	90分

授 業 科 目 の 概 要			
(大学院 薬学研究科 薬学専攻 (博士課程))			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専 門 科 目	環境衛生科学 特論	<p>薬物治療と健康増進を目指す薬学研究の入口では、「ヒトはなぜ患うのか?」という最も根本な疑問を避けて通ることはできない。死因第一位を占めるがんの原因が食物と化学物質一般であるとされるように、本特論では環境から摂取する化学物質（食物を含む）について、また環境因子としての病原微生物について、それらが内分泌系および神経系、免疫系、幹細胞系などに及ぼす影響という側面から解析して疾病に至るプロセスを科学的・総合的に把握する最先端理論を紹介しながら講義する。さらに、その研究に必要な先端技術・専門知識を学ぶとともに、疾病プロセスを未然に防ぐための方法論についても議論し、先導的な研究を推進する基本について講義する。</p> <p><オムニバス方式/全30回></p> <p>(4 小嶋仲夫/5回) 食物成分を含む環境化学物質と金属化合物などの相互作用に起因する生体系および幹細胞系に及ぼす影響（神経脱落、発がん、分化異常など）について解析し、疾病プロセスを未然に防止する方策を考察する。</p> <p>(6 田中 齊/4回) 種々の天然物からの生理活性物質（抗菌、抗ウイルスなど）の探索、その作用機序および医薬品としての評価について講義する。</p> <p>(7 丹羽正武/5回) 食物関連天然物に由来する成分について、疾病予防の観点から抗酸化活性や外来異物の無毒化について講義する。</p> <p>(15 打矢恵一/3回) 病原微生物の感染メカニズム、生体防御メカニズムについて講義する。</p> <p>(20 小森由美子/3回) ワクチン接種による感染症制御メカニズムについて講義する。</p> <p>(21 高谷芳明/4回) 天然物からの医薬品シーズ開発について講義する。</p> <p>(24 山口秀明/4回) 食物由来成分の抗腫瘍および神経細胞分化作用について講義する。</p> <p>(31 二改俊章/2回) 病原微生物の病原因子・阻害因子・病原遺伝子などについて講義する。</p>	オムニバス

授 業 科 目 の 概 要			
(大学院 薬学研究科 薬学専攻 (博士課程))			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専 門 科 目	環境衛生科学 特殊研究 I	<p>環境衛生科学特殊研究では、生体ホメオスタシスのゆらぎを破綻に導く諸要因（化学物質、食品、環境、病原微生物など）と疾患発症メカニズムを解明するとともに、食品および薬物による生体ホメオスタシスの最適化方法について先導的に解決することを研究目標とする。そこで、以下の各研究課題について、食品や天然物由来の各種成分の分離方法および構造決定方法を習得するとともに、それらの生物活性の適切な評価系を構築し、疾病プロセスを解明するための技術と研究能力を養い、自律的かつ先導的に研究を立案・遂行できる能力を身につける。</p> <p>環境衛生科学特殊研究 I では、環境衛生科学分野における一般的な理論と実験手法、また、論文情報を収集する技術を身につける。</p> <p>なお、連携・関連医療施設にて臨床研修を実践しながら研究を実施することがある。</p> <p>研究課題 (4 小嶋仲夫/2 4 山口秀明)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・環境から摂取する各種化学物質（食物成分等）による生体ホメオスタシスの最適化に関する研究 ①環境由来化学物質同士の相互作用に起因する疾病プロセスを解明するために、基本理論や実験手法、および関連する論文情報収集技術の研究指導を行う（4 小嶋仲夫）。 ②食物由来成分の抗腫瘍および神経細胞分化作用を解明するために、一般的な理論と実験手法、また、環境衛生科学に関する論文情報を収集する技術を身につけるように研究指導補助を行う（2 4 山口秀明）。 <p>(6 田中 齊)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・食物関連天然物由来生理活性物質探索と作用機序解明および医薬品としての評価研究のために、基本理論や実験手法、および関連する論文情報収集技術の研究指導を行う。 	

授 業 科 目 の 概 要			
(大学院 薬学研究科 薬学専攻 (博士課程))			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専 門 科 目	環境衛生科学 特殊研究 I	<p>(7 丹羽正武 / 2 1 高谷芳明)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・食物関連天然物成分の抗酸化活性や外来異物の無毒化等の研究および医薬品シーズ開発に関する研究 ①食物関連天然物や食品産業廃棄物に由来する成分について、疾病予防の観点から抗酸化活性や外来異物の無毒化等を研究するために、基本理論や実験手法、および関連する論文情報収集技術の研究指導を行う (7 丹羽正武)。 ②天然物からの医薬品シーズ開発研究のために、一般的な理論と実験手法、また、環境衛生科学に関する論文情報を収集する技術を身につけるように研究指導補助を行う (2 1 高谷芳明)。 <p>(1 5 打矢恵一)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・病原微生物の感染メカニズムおよび生体防御メカニズムの研究のために、基本理論や実験手法、および関連する論文情報解析技術の研究指導を行う。 <p>(2 0 小森由美子)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ワクチン接種等による感染症制御メカニズムおよび新規治療法の開発について研究するために、基本理論や実験手法、および関連する論文情報収集技術の研究指導を行う。 	
	環境衛生科学 特殊研究 II	<p>環境衛生科学特殊研究 II では、研究課題について科学的かつ論理的に研究を推進するための考え方を学ぶとともに、解明すべき研究内容を具体的に定め、そのために必要な研究を立案・遂行する。また、生体ホメオスタシスのゆらぎを破綻に導く諸要因およびそれを是正する天然物・食品成分等に関して収集した論文情報を科学的かつ論理的に評価できる能力を習得する。</p> <p>なお、連携・関連医療施設にて臨床研修を実践しながら研究を実施することがある。</p> <p>研究課題</p> <p>(4 小嶋仲夫 / 2 4 山口秀明)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・環境から摂取する各種化学物質 (食物成分等) による生体ホメオスタシスの最適化に関する研究 	

授 業 科 目 の 概 要			
(大学院 薬学研究科 薬学専攻 (博士課程))			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専 門 科 目	環境衛生科学 特殊研究Ⅱ	<p>①環境化学物質と金属化合物などの相互作用に起因する神経脱落、発がん、分化異常などを幹細胞系なども用いて解析するために、必要な研究を立案・遂行する。また、収集した論文情報を科学的かつ論理的に評価できるように研究指導を行う (4小嶋仲夫)。</p> <p>②食物由来成分の抗腫瘍および神経細胞分化作用を解明するために、必要な研究を立案・遂行する。また、収集した論文情報を科学的かつ論理的に評価できるように研究指導補助を行う (24山口秀明)。</p> <p>(7丹羽正武 / 21高谷芳明)</p> <p>・食物関連天然物成分の抗酸化活性や外来異物の無毒化等の研究および医薬品シーズ開発に関する研究</p> <p>①食物関連天然物や食品産業廃棄物に由来する成分について、疾病予防の観点から抗酸化活性や外来異物の無毒化等を研究するために、必要な研究を立案・遂行する。また、天然物・食品成分等に関して収集した論文情報を科学的かつ論理的に評価できるように研究指導を行う (7丹羽正武)。</p> <p>②天然物からの医薬品シーズ開発研究のために、必要な研究を立案・遂行する。また、天然物・食品成分等に関して収集した論文情報を科学的かつ論理的に評価できるように研究指導補助を行う (21高谷芳明)。</p> <p>(6田中 齊)</p> <p>・食物関連天然物由来生理活性物質探索と作用機序解明および医薬品としての評価研究のために、必要な研究を立案・遂行する。また、天然物・食品成分等に関して収集した論文情報を科学的かつ論理的に評価できるように研究指導を行う。</p> <p>(15打矢恵一)</p> <p>・病原微生物の感染メカニズムおよび生体防御メカニズムの研究のために、必要な研究を立案・遂行する。また、収集した論文情報を科学的かつ論理的に評価できるように研究指導を行う。</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
(大学院 薬学研究科 薬学専攻 (博士課程))			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専 門 科 目	環境衛生科学 特殊研究Ⅱ	(20 小森由美子) ・ワクチン接種等による感染症制御メカニズムおよび新規治療法の開発について研究するために、必要な研究を立案・遂行する。また、収集した論文情報を科学的かつ論理的に評価できるように研究指導を行う。	
	環境衛生科学 特殊研究Ⅲ	環境衛生科学特殊研究Ⅲでは、環境衛生科学特殊研究Ⅱで定めた具体的な研究内容について、立案した研究手法を用いて引き続き研究を推進する。また、生体ホメオスタシスのゆらぎを破綻に導く諸要因およびそれを是正する食品や天然物成分に関して収集した論文情報について評価した内容を、自らの研究結果の検証に利用できる能力を習得する。 なお、連携・関連医療施設にて臨床研修を実践しながら研究を実施することがある。 研究課題 (4 小嶋仲夫/24 山口秀明) ・環境から摂取する各種化学物質（食物成分等）による生体ホメオスタシスの最適化に関する研究 ①環境化学物質等の相互作用による疾病プロセスの解析と、その未然防止方策を考察するために、立案した研究手法を用いて引き続き研究を推進する。また、収集した論文情報について評価した内容を、自らの研究結果の検証に利用できるように研究指導を行う（4 小嶋仲夫）。 ②食物由来成分の抗腫瘍および神経細胞分化作用を解明するために、立案した研究手法を用いて引き続き研究を推進する。また、収集した論文情報について評価した内容を、自らの研究結果の検証に利用できるように研究指導補助を行う（24 山口秀明）。 (7 丹羽正武/21 高谷芳明) ・食物関連天然物成分の抗酸化活性や外来異物の無毒化等の研究および医薬品シーズ開発に関する研究 ①食物関連天然物や食品産業廃棄物に由来する成分について、疾病予防の観点から抗酸化活性や外来異物の無毒化等を研究するために、立案した研究手法を用いて引	

授 業 科 目 の 概 要			
(大学院 薬学研究科 薬学専攻 (博士課程))			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専 門 科 目	環境衛生科学 特殊研究Ⅲ	<p>き続き研究を推進する。また、収集した論文情報について評価した内容を、自らの研究結果の検証に利用できるように研究指導を行う (7 丹羽正武)。</p> <p>②天然物からの医薬品シーズ開発研究のために、立案した研究手法を用いて引き続き研究を推進する。また、収集した論文情報について評価した内容を、自らの研究結果の検証に利用できるように研究指導補助を行う (2 1 高谷芳明)。</p> <p>(6 田中 齊)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・食物関連天然物由来生理活性物質探索と作用機序解明および医薬品としての評価研究のために、立案した研究手法を用いて引き続き研究を推進する。また、収集した論文情報について評価した内容を、自らの研究結果の検証に利用できるように研究指導を行う。 <p>(1 5 打矢恵一)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・病原微生物の感染メカニズムおよび生体防御メカニズムの研究のために、立案した研究手法を用いて引き続き研究を推進する。また、収集した論文情報について評価した内容を、自らの研究結果の検証に利用できるように研究指導を行う。 <p>(2 0 小森由美子)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ワクチン接種等による感染症制御メカニズムおよび新規治療法の開発について研究するために、立案した研究手法を用いて引き続き研究を推進する。また、収集した論文情報について評価した内容を、自らの研究結果の検証に利用できるように研究指導を行う。 	

授 業 科 目 の 概 要			
(大学院 薬学研究科 薬学専攻 (博士課程))			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専 門 科 目	環境衛生科学 特殊研究IV	<p>環境衛生科学特殊研究IVでは、環境衛生科学特殊研究 I ～ IIIで得られた研究結果を科学的かつ論理的に解析し、さらにこれまでに報告されている論文情報との整合性、新規性について考察を加えることにより、その研究成果を博士論文としてまとめる。</p> <p>なお、連携・関連医療施設にて臨床研修を実践しながら研究を実施することがある。</p> <p>研究課題</p> <p>(4 小嶋仲夫/2 4 山口秀明)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・環境から摂取する各種化学物質 (食物成分等) による生体ホメオスタシスの最適化に関する研究 ①食物成分を含む環境化学物質と金属化合物などの相互作用に起因する生体系および幹細胞系に及ぼす影響について解析し、疾病プロセスを未然に防止する方策を策定するために、これまでの研究結果を解析し、さらに各種論文情報により考察を加え博士論文にまとめるように研究指導を行う (4 小嶋仲夫)。 ②食物由来成分の抗腫瘍および神経細胞分化作用を解明するために、これまでの研究結果を解析し、さらに各種論文情報により考察を加え博士論文にまとめるように研究指導補助を行う (2 4 山口秀明)。 <p>(7 丹羽正武/2 1 高谷芳明)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・食物関連天然物成分の抗酸化活性や外来異物の無毒化等の研究および医薬品シーズ開発に関する研究 ①食物関連天然物や食品産業廃棄物に由来する成分について、疾病予防の観点から抗酸化活性や外来異物の無毒化等を研究するために、これまでの研究結果を解析し、さらに各種論文情報により考察を加え博士論文にまとめるように研究指導を行う (7 丹羽正武)。 ②天然物からの医薬品シーズ開発研究のために、これまでの研究結果を解析し、さらに各種論文情報により考察を加え博士論文にまとめるように研究指導補助を行う (2 1 高谷芳明)。 <p>(6 田中 齊)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・食物関連天然物由来生理活性物質探索と作用機序解明およ 	

授 業 科 目 の 概 要			
(大学院 薬学研究科 薬学専攻 (博士課程))			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専 門 科 目	環境衛生科学 特殊研究IV	<p>び医薬品としての評価研究のために、これまでの研究結果を解析し、さらに各種論文情報により考察を加え博士論文にまとめるように研究指導を行う。</p> <p>(15 打矢恵一)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・病原微生物の感染メカニズムおよび生体防御メカニズムの研究のために、これまでの研究結果を解析し、さらに各種論文情報により考察を加え博士論文にまとめるように研究指導を行う。 <p>(20 小森由美子)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ワクチン接種等による感染症制御メカニズムおよび新規治療法の開発について研究するために、これまでの研究結果を解析し、さらに各種論文情報により考察を加え博士論文にまとめるように研究指導を行う。 	
	医療情報科学 特論	<p>医薬品の適正使用、医療の質の向上に貢献できる研究能力を養成するために、医薬品や医療行為等に関する様々な医療情報の集積、有効性・安全性について治療学的、医療薬学的、医療経済学的な評価に関する専門的な知識を習得する。そのため医薬品情報学、医療経済学、臨床薬理学、医療倫理学、薬剤疫学、社会薬学の基礎と応用について包括的に講義する。</p> <p><オムニバス方式/全30回></p> <p>(3 亀井浩行/7回) 患者の医学的問題のみでなく、心理的、家庭的、社会的背景を理解し、患者に全人的医療を提供するために必要な医療コミュニケーションのあり方とその方法論について講義する。</p> <p>(5 後藤伸之/7回) 市販後の使用実態下における医薬品ベネフィット・リスクバランスの評価方法や薬物療法におけるリスク管理について講義する。</p> <p>(10 永松 正/7回) 有効かつ安全な薬物治療を提供し、治療の適正化を推進するために、分子基盤に基づく疾患発生機序とその治療薬の作用について講義する。</p>	オムニバス

授 業 科 目 の 概 要			
(大学院 薬学研究科 薬学専攻 (博士課程))			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専 門 科 目	医療情報科学 特論	<p>(16 大津史子/7回) 医療の場における問題識別方法、情報源選択・情報検索方法、医療情報評価法について具体的な実例を材料として取り上げ、これらの知識技術を講義する。</p> <p>(29 坂巻弘之/2回) 適正な薬物治療の実施には医薬品の有効性や安全性の評価に加え、経済性評価も必要である。そこで、経済学的な視点から医療制度を俯瞰し、医療技術を評価するための技法を講義する。</p>	オムニバス
	医療情報科学 特殊研究 I	<p>薬物治療のベネフィット・リスクを評価するには、医薬品の開発段階から市販後までの医療情報、さらに薬物治療の有効性・安全性とその経済性に関する情報を収集、解析し、統合的に評価する必要がある。医療情報科学特殊研究では、薬物治療の有効性・安全性・経済性について、臨床薬理的、医薬品情報学的、薬剤疫学的、医療経済学的、社会薬学的に統合した情報処理・評価に関する研究を行い、医薬品適正使用の推進に寄与することを研究目標とする。</p> <p>そこで、以下の研究課題において、薬物治療の有効性・安全性に関する情報の評価・提供・安全性対策が立案できる技術と研究能力、医療情報に基づいて有効で安全な個別薬物治療法が構築できる研究能力、さらに、実施された薬物治療を臨床薬理的に評価する研究能力を養い、合理性のある有効で安全な薬物治療の遂行に対して責任の一端を担い、自律的かつ先導的に研究を立案・遂行できる能力を身につける。</p> <p>医療情報科学特殊研究 I では、薬物治療の適正化を推進するため、その有効性・安全性・経済性に関する一般的な基礎理論と研究手法を習得する。また、医療情報科学に関する論文情報を収集する技術を身につける。</p> <p>なお、連携・関連医療施設にて臨床研修を実践しながら研究を実施することがある。</p> <p>研究課題 (5 後藤伸之/16 大津史子) ・薬物治療のベネフィット・リスクバランスの評価に関する研究について基礎理論と研究手法を習得する。</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
(大学院 薬学研究科 薬学専攻 (博士課程))			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専 門 科 目	医療情報科学 特殊研究Ⅰ	<p>①作用の発症危険因子の探索と定量的評価に関する医薬品情報学的研究 (5 後藤伸之) 及び研究補助を行う (16 大津史子)。</p> <p>②薬物治療法の医療経済学的研究を行う (5 後藤伸之)。(10 永松 正)</p> <p>・疾患の発症機序および進展に対する医薬品の臨床薬理学的解析に関する基礎理論と研究手法を習得する。(3 亀井浩行)</p> <p>・薬物治療法の開発・確立のために、一般的な基礎理論の習得、研究手法の網羅的探索や論文情報の収集技術について研究指導を行う。</p>	
	医療情報科学 特殊研究Ⅱ	<p>医療情報科学特殊研究Ⅱでは、研究課題について科学的かつ理論的に研究を推進するための考え方を学ぶとともに、解明すべき研究内容を具体的に定め、そのために必要な研究手法を立案する。また、医療情報科学に関して収集した論文情報を科学的かつ理論的に評価できる能力を習得する。</p> <p>なお、連携・関連医療施設にて臨床研修を実践しながら研究を実施することがある。</p> <p>研究課題 (5 後藤伸之 / 16 大津史子)</p> <p>・薬物治療のベネフィット・リスクバランスの評価に関する研究手法を立案する。</p> <p>①作用の発症危険因子の探索と定量的評価に関する医薬品情報学的研究 (5 後藤伸之) 及び研究補助を行う (16 大津史子)。</p> <p>②薬物治療法の医療経済学的研究を行う。(5 後藤伸之) (10 永松 正)</p> <p>・疾患の発症機序および進展に対する医薬品の臨床薬理学的解析方法を立案する。(3 亀井浩行)</p> <p>・薬物治療法の開発・確立のために、科学的かつ理論的に研究を推進できる考え方の習得、研究内容を具体化し、そのために必要な研究手法の立案や収集した論文情報を科学的に評価できる能力の習得について研究指導を行う。</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
(大学院 薬学研究科 薬学専攻 (博士課程))			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専 門 科 目	医療情報科学 特殊研究Ⅲ	<p>医療情報科学特殊研究Ⅲでは、医療情報科学特殊研究Ⅱで定めた具体的な研究内容について、立案した研究手法を用いて研究を行う。また、医療情報科学に関する論文情報について評価した内容を、自らの研究結果の検証に利用できる能力を習得する。</p> <p>なお、連携・関連医療施設にて臨床研修を実践しながら研究を実施することがある。</p> <p>研究課題 (5 後藤伸之 / 16 大津史子)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・薬物治療のベネフィット・リスクバランスの評価に関する研究について調査・研究手法を習得する。 ①作用の発症危険因子の探索と定量的評価に関する医薬品情報学的研究 (5 後藤伸之) 及び研究補助を行う (16 大津史子)。 ②薬物治療法の医療経済学的研究を行う (5 後藤伸之)。 <p>(10 永松 正)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・疾患の発症機序および進展に対する医薬品の臨床薬理的解析に関する研究を実施する。 <p>(3 亀井浩行)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・薬物治療法の開発・確立のために、具体化した研究内容を自ら立案した研究手法を用いて研究を推進すること、論文情報について評価した内容を自らの研究結果の検証に利用できる能力の習得について研究指導を行う。 	
	医療情報科学 特殊研究Ⅳ	<p>医療情報科学特殊研究Ⅳでは、医療情報科学特殊研究Ⅰ～Ⅲで得られた研究結果を科学的かつ理論的に解析し、さらにこれまでに報告されている論文情報との整合性、新規性について考察を加えることにより、その研究成果を博士論文としてまとめる。</p> <p>なお、連携・関連医療施設にて臨床研修を実践しながら研究を実施することがある。</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
(大学院 薬学研究科 薬学専攻 (博士課程))			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専 門 科 目	医療情報科学 特殊研究IV	<p>研究課題 (5 後藤伸之 / 16 大津史子)</p> <ul style="list-style-type: none"> 薬物治療のベネフィット・リスクバランスの評価に関する研究について科学的かつ理論的に解析し、研究成果をまとめる。 ①作用の発症危険因子の探索と定量的評価に関する医薬品情報学的研究 (5 後藤伸之) 及び研究補助を行う (16 大津史子)。 ②薬物治療法の医療経済学的研究を行う。(後藤伸之) <p>(10 永松 正)</p> <ul style="list-style-type: none"> 疾患の発症機序および進展に対する医薬品の臨床薬理的解析結果について科学的かつ理論的に研究成果をまとめる。 <p>(3 亀井浩行)</p> <ul style="list-style-type: none"> 薬物治療法の開発・確立のために、得られた研究結果を科学的かつ理論的に解析し、この解析結果に対して既に報告されている論文情報との整合性、新規性について考察できるよう研究指導を行い、博士論文作成へ導く。 	
	病態解析科学 特論	<p>疾病の原因となる生体変化や疾病に特有の生体変化を多面的な視野で解析・評価する研究遂行能力を養い、疾病の原因究明と診断・治療法の開発に貢献できる実践的かつ専門的な研究能力の向上を目指す。そのため、分子細胞生物学を基礎として、器官発生や病態制御における細胞動態と細胞死、ならびに神経細胞のストレス応答反応に伴う神経変性疾患発現のメカニズム、タンパク質構造のバイオインフォマティクスに関する知識について学ぶ。</p> <p><オムニバス方式 / 全30回></p> <p>(2 金田典雄 / 8回) 神経細胞の生理機能ならびにパーキンソン病を始めとする病態時の細胞機能に関する最新の分子細胞生物学的研究について講義し、新しい治療法開発に応用するための研究能力を育成する。</p>	オムニバス

授 業 科 目 の 概 要			
(大学院 薬学研究科 薬学専攻 (博士課程))			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専 門 科 目	病態解析科学 特論	<p>(1 1 湯川和典/8回) 最新の分子細胞生物学の成果をもとにがん・糖尿病・神経変性疾患などの病態メカニズムについて講義し、器官発生や病態制御における細胞動態と細胞死に関する新規知見を加え、疾患の病態生理学についての考察を深める。</p> <p>(1 8 栗本英治/7回) タンパク質機能発現の構造基盤を解明するための X 線結晶構造解析、NMR、電子顕微鏡等による解析およびデータベースを利用した構造バイオインフォマティクスについて解説し、疾患の病態解析への応用について講義する。</p> <p>(2 3 村田富保/7回) 神経細胞のストレス応答反応に関する最先端の研究について講義し、分子生物学的、生化学的、細胞生物学的な観点から神経変性疾患を理解するために学術的な考察力を育成する。</p>	
	病態解析科学 特殊研究 I	<p>病態解析科学特殊研究では、疾患の原因となる生体変化や疾病に特有の生体変化の生理学的・生化学的・分子生物学的な評価と診断・治療技術への応用に関する研究を行い、疾患の原因究明と診断・治療法の開発に貢献することを研究目標とする。この研究目標を達成するための以下の研究課題において、疾患の病態を分子の挙動から細胞や個体レベルの変化まで幅広く解析し評価できる技術と研究能力を養い、疾患の病態解明から診断・治療法の開発に結びつく研究を自律的かつ先導的に遂行する能力を身につける。</p> <p>病態解析科学特殊研究 I では、病態解析科学に関する一般的な基礎理論と実験手法を習得する。また、病態解析科学に関する論文情報を収集する技術を身につける。</p> <p>なお、連携・関連医療施設にて臨床研修を実践しながら研究を実施することがある。</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
(大学院 薬学研究科 薬学専攻 (博士課程))			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専 門 科 目	病態解析科学 特殊研究 I	<p>研究課題</p> <p>(1 1 湯川和典 / 1 8 栗本英治)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・病態時における異常細胞の動態と発現タンパク質の機能と構造 ①疾患モデル動物の病態における異常細胞の動態と細胞死の役割解明に関する実験手法の習得や文献情報の精査などの指導を行う (1 1 湯川和典)。 ②タンパク質機能発現の構造基盤を解明するための基礎理論を習得し、疾患の病態解析への応用について実験補助を行う (1 8 栗本英治)。 <p>(2 金田典雄 / 2 3 村田富保)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・神経細胞における病態時の生物学的挙動と生物応答 ①神経の発生・分化と神経栄養因子、神経変性疾患における遺伝子発現制御に関する実験手法の習得や文献情報の精査などの指導 (2 金田典雄) やその実験補助を行う (2 3 村田富保)。 ②新規開発特殊神経細胞株を用いる神経変性疾患の病因解明に関する実験手法の習得や文献情報の精査などの指導 (2 金田典雄) やその実験補助を行う (2 3 村田富保)。 	
	病態解析科学 特殊研究 II	<p>病態解析科学特殊研究 II では、研究課題について科学的かつ理論的に研究を推進するための考え方を学ぶとともに、解明すべき研究内容を具体的に定め、そのために必要な研究手法を立案する。また、病態解析科学に関して収集した論文情報を科学的かつ理論的に評価できる能力を習得する。</p> <p>なお、連携・関連医療施設にて臨床研修を実践しながら研究を実施することがある。</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
(大学院 薬学研究科 薬学専攻 (博士課程))			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専 門 科 目	病態解析科学 特殊研究Ⅱ	<p>研究課題 (1 1 湯川和典 / 1 8 栗本英治)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・病態時における異常細胞の動態と発現タンパク質の機能と構造 <ul style="list-style-type: none"> ①疾患モデル動物の病態における異常細胞の動態と細胞死の役割解明に関する基本情報をもとに実験計画を立案するための指導を行う (1 1 湯川和典)。 ②タンパク質データベースを利用した疾患の病態解析の実験計画に関して指導補助を行う (1 8 栗本英治)。 (2 金田典雄 / 2 3 村田富保) ・神経細胞における病態時の生物学的挙動と生物応答 <ul style="list-style-type: none"> ①神経の発生・分化と神経栄養因子、神経変性疾患における遺伝子発現制御に関する基本情報をもとに実験計画を立案するための指導 (2 金田典雄) やその指導補助を行う (2 3 村田富保)。 ②新規開発特殊神経細胞株を用いる神経変性疾患の病因解明に関する基本情報をもとに実験計画を立案するための指導 (2 金田典雄) やその指導補助を行う (2 3 村田富保)。 	
	病態解析科学 特殊研究Ⅲ	<p>病態解析科学特殊研究Ⅲでは、病態解析科学特殊研究Ⅱで定めた具体的な研究内容について、立案した研究手法を用いて研究を行う。また、病態解析科学に関する論文情報について評価した内容を、自らの研究結果の検証に利用できる能力を習得する。</p> <p>なお、連携・関連医療施設にて臨床研修を実践しながら研究を実施することがある。</p> <p>研究課題 (1 1 湯川和典 / 1 8 栗本英治)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・病態時における異常細胞の動態と発現タンパク質の機能と構造 <ul style="list-style-type: none"> ①疾患モデル動物の病態における異常細胞の動態と細胞死の役割解明に関する実験データの解析や実験計画の修正等に関する指導を行う (1 1 湯川和典)。 ②タンパク質機能発現の構造基盤を解明するための X 線結晶構造解析、NMR 等の実験データの解析について実験補助を行う (1 8 栗本英治)。 	

授 業 科 目 の 概 要			
(大学院 薬学研究科 薬学専攻 (博士課程))			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専 門 科 目	病態解析科学 特殊研究Ⅲ	<p>(2 金田典雄 / 2 3 村田富保)</p> <p>・神経細胞における病態時の生物学的挙動と生物応答</p> <p>①神経の発生・分化と神経栄養因子、神経変性疾患における遺伝子発現制御に関する実験データの解析や実験計画の修正等に関する指導 (2 金田典雄) やその実験補助を行う (2 3 村田富保)。</p> <p>②新規開発特殊神経細胞株を用いる神経変性疾患の病因解明に関する実験データの解析や実験計画の修正などに関する指導 (2 金田典雄) やその実験補助を行う (2 3 村田富保)。</p>	
	病態解析科学 特殊研究Ⅳ	<p>病態解析科学特殊研究Ⅳでは、病態解析科学特殊研究Ⅰ～Ⅲで得られた研究結果を科学的かつ理論的に解析し、さらにこれまでに報告されている論文情報との整合性、新規性について考察を加えることにより、その研究成果を関係学会で認められる博士論文にまとめる。</p> <p>なお、連携・関連医療施設にて臨床研修を実践しながら研究を実施することがある。</p> <p>研究課題</p> <p>(1 1 湯川和典 / 1 8 栗本英治)</p> <p>・病態時における異常細胞の動態と発現タンパク質の機能と構造</p> <p>①疾患モデル動物の病態における異常細胞の動態と細胞死の役割解明に関する研究成果について、博士論文としてまとめるための指導を行う (1 1 湯川和典)。</p> <p>②タンパク質機能発現の構造基盤を解明するための X 線結晶構造解析、NMR、電子顕微鏡等による解析から得られた研究成果について、博士論文としてまとめるための指導補助を行う (1 8 栗本英治)。</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
(大学院 薬学研究科 薬学専攻 (博士課程))			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専 門 科 目	病態解析科学 特殊研究IV	<p>(2 金田典雄 / 2 3 村田富保)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・神経細胞における病態時の生物学的挙動と生物応答 ①神経の発生・分化と神経栄養因子、神経変性疾患における遺伝子発現制御に関する研究成果について、博士論文としてまとめるための指導 (2 金田典雄) やその指導補助を行う (2 3 村田富保)。 ②新規開発特殊神経細胞株を用いる神経変性疾患の病因解明に関する研究成果について、博士論文としてまとめるための指導 (2 金田典雄) やその指導補助を行う (2 3 村田富保)。 	

授 業 科 目 の 概 要			
(大学院 薬学研究科 薬学専攻 (博士課程))			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専 門 科 目	薬物治療科学 特論	<p>疾病の治療とともに「育薬」に貢献できる研究能力を養成するために、医薬品や伝統薬が有する薬理作用を多面的な視野で解析・評価する実践的かつ専門的な知識を習得する。そこで、薬理学、疾患・治療学、生薬学、漢方医学、薬効評価学などについて受講者参加型のグループ討論や演習的な講義を交えながら包括的に学ぶ。以下に示す講義をオムニバス方式で行う。</p> <p><オムニバス方式/全30回></p> <p>(8能勢充彦/8回) 生薬・漢方薬などの伝統医薬品の有効性・安全性を基礎・臨床の両面から評価し、現代医療における役割について講義する。伝統医薬品の薬理作用を分子レベルから個体レベルに渡り評価する研究方法論について解説するとともに、伝統薬の適正使用を探究し、新たな日本型の医療に資するためには何が必要か、例えば「育薬」といった視点から討論する。</p> <p>(12吉田 勉/8回) 治療上の有効性・安全性を実地臨床から検証し、疾病の診断や治療について講義する。適用外の薬物療法とその治療評価について解説するとともに、「育薬」の観点から適用外使用について討論する。</p> <p>(19小島良二/8回) 薬物の治療上の有効性・安全性を患者背景に基づいて解析・評価し、生命システムとしての細胞における薬物を含む外部刺激に対する細胞応答機能について講義する。また、細胞再生機能の観点から薬物の適用拡大や副作用を抑制する方法論について解説し、「育薬」への応用について討論する。</p> <p>(32野田幸裕/3回) 生体における薬物の作用機序を細胞レベルから個体レベルまで幅広く評価する研究手法論について講義するとともに、医薬品の効果を解析・再評価するモデル動物と疾患との関連性について解説する。新規ターゲット分子の探索方法から「育薬」について討論する。</p> <p>(33平松正行/3回) 生体内の神経系、内分泌系および免疫系などの情報ネットワークにおける医薬品の調節機構の原理を講義するとともに、ヒトの生体機能制御について解説する。また、医療・薬学分野で用いられている統計手法や実際のデータを用いて、統計処理、非線形解析、結果のまとめ方について討論する。</p>	オムニバス

授 業 科 目 の 概 要			
(大学院 薬学研究科 薬学専攻 (博士課程))			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専 門 科 目	薬物治療科学 特殊研究 I	<p>薬物治療科学特殊研究では、医薬品や伝統薬の治療上の有効性・安全性を疫学的・科学的に評価・再評価し、その適正使用、適用拡大や副作用の抑制を目的として、「育薬」に貢献するために以下の研究課題を実施する。そこで、分子・細胞レベルから個体レベルまで幅広く評価できる技術と研究能力、あるいは医療現場での実学レベルにおいて薬物治療上の有効性や安全性を科学的に検証することができる技術と研究能力を養い、自律的かつ先導的に研究を遂行できる能力を身につける。</p> <p>薬物治療科学特殊研究 I では、医薬品や伝統薬などの薬効の評価や解析に関する一般的な基礎理論と実験手法を習得する。また、医薬品や伝統薬などの薬効の評価や解析に関する論文情報を収集する技術を身につける。</p> <p>なお、連携・関連医療施設にて臨床研修を実践しながら研究を実施することがある。</p> <p>研究課題</p> <p>(8 能勢充彦)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生体における伝統薬などの薬効・薬理作用の評価および再評価による適正使用および適用拡大に関する研究 <ul style="list-style-type: none"> 生体における伝統薬などの薬効・薬理作用の評価・解析に関する基礎理論と実験手法について研究指導を行う。 <p>(1 2 吉田 勉 / 1 9 小島良二)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・医薬品などの薬物療法や分子・細胞薬理学的作用の評価および再評価による適正使用および適用拡大に関する研究 <ul style="list-style-type: none"> ①臨床現場における医薬品などの薬効の評価・解析に関する基礎理論と解析手法についての研究指導、およびそれらに関する論文情報を収集する技術の指導を行う (1 2 吉田 勉) 。 ②医薬品などの細胞応答機能に関する基礎理論と実験手法についての研究指導補助、およびそれらに関する論文情報を収集する技術の指導補助を行う (1 9 小島良二) 。 	

授 業 科 目 の 概 要			
(大学院 薬学研究科 薬学専攻 (博士課程))			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専 門 科 目	薬物治療科学 特殊研究Ⅱ	<p>薬物治療科学特殊研究Ⅱでは、研究課題について科学的かつ論理的に研究を推進するための考え方を学ぶとともに、解明すべき研究内容を具体的に定め、そのために必要な研究を立案・遂行する。また、医薬品や伝統薬などの薬効の評価や解析に関して収集した論文情報を批判的かつ理論的に評価できる能力を習得する。</p> <p>なお、連携・関連医療施設にて臨床研修を実践しながら研究を実施することがある。</p> <p>研究課題 (8 能勢充彦)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生体における伝統薬などの薬効・薬理作用の評価および再評価による適正使用および適用拡大に関する研究 <p>伝統薬などの薬効・薬理作用の評価・解析に関して、科学的かつ論理的に研究を推進するために、解明すべき研究内容を具体的に立案し、遂行できるように研究指導を行う。また、研究を遂行するために収集した論文情報を批判的かつ理論的に評価できるように指導する。</p> <p>(12 吉田 勉 / 19 小島良二)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・医薬品などの薬物療法や分子・細胞薬理学的作用の評価および再評価による適正使用および適用拡大に関する研究 <p>①臨床現場における医薬品などの薬効を科学的に評価・解析するために、適切な論文情報を収集し、論文を批判的かつ理論的に評価できるように指導する。また、収集した論文情報を基に研究内容を具体的に立案し、遂行できるように研究指導を行う (12 吉田 勉)。</p> <p>②医薬品などの分子・細胞薬理学的応答機能に関する論文情報を批判的かつ理論的に評価できるように指導補助を行い、論文情報に基づき研究内容を具体的に立案し、遂行できるように研究の指導補助を行う (19 小島良二)。</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
(大学院 薬学研究科 薬学専攻 (博士課程))			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専 門 科 目	薬物治療科学 特殊研究Ⅲ	<p>薬物治療科学特殊研究Ⅲでは、薬物治療科学特殊研究Ⅱで得られた自らの研究成果をそれまでに蓄積した論文情報に基づいて検証し、関係学会で認められるレベルの研究を自ら立案・遂行する能力を修得する。</p> <p>なお、連携・関連医療施設にて臨床研修を実践しながら研究を実施することがある。</p> <p>研究課題 (8 能勢充彦)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生体における伝統薬などの薬効・薬理作用の評価および再評価による適正使用および適用拡大に関する研究 <p>生体における伝統薬などの薬効・薬理作用を評価および再評価して得られた結果について、蓄積した論文情報に基づいて対比・検証できるように指導を行う。また、新規治療薬としての可能性を証明する研究の立案・遂行、および得られた結果を関係学会にて発表できるように指導を行う。</p> <p>(12 吉田 勉 / 19 小島良二)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・医薬品などの薬物療法や分子・細胞薬理学的作用の評価および再評価による適正使用および適用拡大に関する研究 <ol style="list-style-type: none"> ①臨床現場において医薬品などの薬効を評価・再評価して得られた結果について関係学会にて発表できるように、また、再評価によって得られた結果から適応拡大の可能性を証明する研究を立案・遂行できるように指導を行う (12 吉田 勉)。 ②分子・細胞薬理学的手法を用いて、再評価した医薬品などの新規治療薬としての可能性について証明する研究を自ら立案・遂行できるように指導補助を行う (19 小島良二)。 	

授 業 科 目 の 概 要			
(大学院 薬学研究科 薬学専攻 (博士課程))			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専 門 科 目	薬物治療科学 特殊研究IV	<p>薬物治療科学特殊研究IVでは、薬物治療科学特殊研究 I ～ IIIで得られた研究結果を科学的かつ論理的に解析し、さらにこれまでに報告されている論文情報との整合性、新規性について考察を加えることにより、その研究成果を博士論文としてまとめる。</p> <p>なお、連携・関連医療施設にて臨床研修を実践しながら研究を実施することがある。</p> <p>研究課題 (8 能勢充彦)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生体における伝統薬などの薬効・薬理作用の評価および再評価による適正使用および適用拡大に関する研究 自ら立案・遂行した研究結果を科学的かつ論理的に解析し、既報との整合性や新規性について考察を加え、必要な追加実験の研究指導を行いながら、その研究成果を博士論文としてまとめることができるように指導を行う。 (12 吉田 勉 / 19 小島良二) ・医薬品などの薬物療法や分子・細胞薬理学的作用の評価および再評価による適正使用および適用拡大に関する研究 ①自ら立案・遂行した研究結果を科学的かつ論理的に解析し、既報との整合性や新規性について考察を加え、必要に応じて追加実験の研究指導を行う。その研究成果を博士論文としてまとめることができるように指導を行う (12 吉田 勉)。 ②自ら立案・遂行した研究結果を客観的に解析・考察できるように研究の指導補助を行い、博士論文にまとめることができるように指導補助を行う (19 小島良二)。 	

授 業 科 目 の 概 要			
(大学院 薬学研究科 薬学専攻 (博士課程))			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専 門 科 目	薬物動態科学 特論	<p>医薬品の有用性は薬物の薬理作用のみではなく、その体内動態（吸収・分布・代謝・排泄）および製剤によって影響を受ける。医薬品を適正に使用するためには、製剤の特性を深く理解し、患者個々の状態に応じて薬物の体内動態がどのように影響されるかを科学的に考慮したうえでの投与設計が必要である。また、育薬という側面からは、薬物の物理化学的性質および体内動態特性、さらに社会的ニーズを考慮した製剤を開発することが望まれる。以上の観点から、薬物の体内動態および製剤開発に関して、以下の講義を行う。</p> <p><オムニバス方式／全30回></p> <p>（1岡本浩一／7回）これまでに実用化されている DDS（ドラッグデリバリーシステム）の機能・機構・優位性、現在の DDS 開発動向、DDS に対する社会的ニーズについて講義する。</p> <p>（9原 脩／7回）薬物の物理化学的性質および生体との相互作用の制御を目的とした、医薬品の分子構造を認識し内包可能なキャリアーである自己集積分子やモレキュラーインプリンティングの概念、また一般的な分子認識能に関して講義する。</p> <p>（17加藤美紀／7回）薬物代謝及びトランスポーター機能が薬物の体内動態に及ぼす影響について分子生物学的、薬物速度論的な観点から検証し、患者個々に適した投与設計について講義する。</p> <p>（22丹羽敏幸／7回）噴霧急速凍結乾燥法、超低温媒体粉碎法、湿式ナノ粉碎法など、最新の微粒子調製技術について解説し、新規 DDS 製剤への適用について講義する。</p> <p>（30灘井雅行／2回）患者の病態および薬物相互作用が薬物の体内動態に及ぼす影響について薬物速度論的な観点から検証し、適切な投与設計法について講義する。</p>	オムニバス

授 業 科 目 の 概 要			
(大学院 薬学研究科 薬学専攻 (博士課程))			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専 門 科 目	薬物動態科学 特殊研究 I	<p>薬物動態科学特殊研究では、薬物の体内動態を支配する因子および薬物の物理化学的性質を理解し、医薬品の有用性を最大限引き出せる DDS を設計することにより医薬品の適正使用と育薬に貢献することを研究目標とする。そこで、以下の研究課題について、薬物の体内動態を薬物速度論的に理解・解析し、薬物の物理化学的性質と生体との適合性に基づいた製剤開発を理論的に進めることができる技術と研究能力を養い、自律的かつ先導的に研究を立案・遂行できる能力を身につける。</p> <p>薬物動態科学特殊研究 I では、薬物の体内動態解析および製剤設計に関する一般的な基礎理論と実験手法を習得する。また、薬物の体内動態解析および製剤設計に関する論文情報を収集する技術を身につける。</p> <p>なお、連携・関連医療施設にて臨床研修を実践しながら研究を実施することがある。</p> <p>研究課題</p> <p>(1 岡本浩一 / 2 2 丹羽敏幸)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新規微粒子製剤の調製と吸入剤への適用 ①小動物を用いた経肺吸収実験法を習得させるとともに吸入療法に関する文献調査を指導する (1 岡本浩一)。 ②噴霧急速凍結乾燥法、湿式ナノ粉碎法、超臨界二酸化炭素晶析法など最新の微粒子調製技術を習得させるとともに文献調査を通して粒子設計理論を学ばせる (2 2 丹羽敏幸)。 <p>(9 原 脩)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・分子認識能をもつキャリアー分子に関する文献情報収集を指導し、分子設計・合成について研究指導を行う。 <p>(1 7 加藤美紀)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小動物を用いた薬物体内動態解析法並びに細胞レベル・分子レベルでの薬物相互作用解析法を修得させるとともに、関連文献収集法を指導する。 	

授 業 科 目 の 概 要			
(大学院 薬学研究科 薬学専攻 (博士課程))			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専 門 科 目	薬物動態科学 特殊研究Ⅱ	<p>薬物動態科学特殊研究Ⅱでは、研究課題について科学的かつ理論的に研究を推進するための考え方を学ぶとともに、解明すべき研究内容を具体的に定め、そのために必要な研究を立案・遂行する。また、薬物の体内動態解析および製剤設計に関して収集した論文情報を科学的かつ理論的に評価できる能力を習得する。</p> <p>なお、連携・関連医療施設にて臨床研修を実践しながら研究を実施することがある。</p> <p>研究課題</p> <p>(1 岡本浩一 / 2 2 丹羽敏幸)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新規微粒子製剤の調製と吸入剤への適用 ①蛍光色素等で標識した微粒子の小動物肺内に投与により吸入に適した微粒子の検索を行い、肺がんなどの肺局所疾患治療研究計画立案を指導する (1 岡本浩一)。 ②各微粒子調製条件を最適化し、吸入を始めとする経粘膜適用に適した微粒子調製法立案を指導する (2 2 丹羽敏幸)。 <p>(9 原 脩)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生理的な特異な環境に呼応し、必要な部位において薬物を放出可能な鏡像体の分子認識能をもつキャリアー分子の設計法立案及び合成について研究指導を行う。 <p>(1 7 加藤美紀)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・疾患が薬物の体内動態に及ぼす影響ならびに薬物動態学的相互作用を薬物速度論的に解析・考察する研究の指導を行う。 	

授 業 科 目 の 概 要			
(大学院 薬学研究科 薬学専攻 (博士課程))			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専 門 科 目	薬物動態科学 特殊研究Ⅲ	<p>薬物動態科学特殊研究Ⅲでは、薬物動態科学特殊研究Ⅱで得られた自らの研究成果をそれまでに蓄積した論文情報に基づいて検証し、関係学会で認められるレベルの研究を自ら立案・遂行する能力を修得する。</p> <p>なお、連携・関連医療施設にて臨床研修を実践しながら研究を実施することがある。</p> <p>研究課題</p> <p>(1 岡本浩一 / 2 2 丹羽敏幸)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新規微粒子製剤の調製と吸入剤への適用 ①肺がんなどの肺局所疾患治療に適したプラスミド遺伝子および siRNA の新規微粒吸入剤を開発する研究について研究指導を行う (1 岡本浩一)。 ②適切な粒子径を有しかつ付着凝集性が低く、薬剤的な付加価値を持たせた微粒子の設計・調製法について研究指導を行う (2 2 丹羽敏幸)。 <p>(9 原 脩)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・合成したキャリアー分子の分子認識能及び放出特性から分子構造の最適化を行う研究の指導を行う。 <p>(1 7 加藤美紀)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・疾患が薬物の体内動態に及ぼす影響ならびに薬物動態学的相互作用の機序を分子レベルで解明する研究の指導を行う。 	

授 業 科 目 の 概 要			
(大学院 薬学研究科 薬学専攻 (博士課程))			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専 門 科 目	薬物動態科学 特殊研究IV	<p>薬物動態科学特殊研究IVでは、薬物動態科学特殊研究 I ～ IIIで得られた研究結果を科学的かつ理論的に解析し、さらにこれまでに報告されている論文情報との整合性、新規性について考察を加えることにより、その研究成果を博士論文としてまとめる。</p> <p>なお、連携・関連医療施設にて臨床研修を実践しながら研究を実施することがある。</p> <p>研究課題</p> <p>(1 岡本浩一 / 2 2 丹羽敏幸)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新規微粒子製剤の調製と吸入剤への適用 ①自ら開発した肺局所疾患治療に適した新規微粒吸入剤の有用性について文献情報を参照しつつ検証し、博士論文にまとめるための研究指導を行う (1 岡本浩一)。 ②自ら開発した最新の微粒子調製技術と製薬産業での応用について検証し、博士論文にまとめるための研究指導を行う (2 2 丹羽敏幸)。 <p>(9 原 脩)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・最適化されたキャリアー分子の有用性について文献情報を参照しつつ検証し、博士論文にまとめるための研究指導を行う。 <p>(1 7 加藤美紀)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・疾患による薬物の体内動態変動ならびに薬物動態学的相互作用が治療効果に及ぼす影響について文献情報を参照しつつ分子レベルで検証し、博士論文にまとめるための研究指導を行う。 	

授 業 科 目 の 概 要			
(大学院 薬学研究科 薬学専攻 (博士課程))			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
関 連 科 目	医療英語特論	<p>本特論では、専門的な医療英語を修得するため、代表的な表現法や構文、および臨床薬学に不可欠な疾病と薬物治療について講義する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ Warming up として、学生生活 (研究活動等) について紹介しながら問答の実践。 ・ 医療英語の基本的な単語・表現の修得。 ・ テキストを用いた疾病・薬種別のコミュニケーションの実践 (薬剤師から患者への服薬指導、カウンセリング等のロールプレイ)。 ・ ケーススタディの解説とその内容についてのディスカッション、意見交換等の実践。 <p>これにより、臨床現場において外国人患者とスムーズにコミュニケーションすることができよう医療英語を修得する。</p>	集中
	臨床薬学研修	<p>臨床現場において指導者として活躍できる専門性の高い臨床薬剤師を育成するために、臨床研修を通じて知識、技能を習得し、また医療倫理観を育む。薬物療法を介して医療チームで活躍できる臨床薬学のスペシャリストを養成するために、6カ月間、薬剤部、看護部、検査部、診療科などで臨床研修を行う。</p> <p>臨床研修としては、薬剤部での薬剤師一般業務研修、看護部での患者ケア研修、検査部での臨床検査研修、診療科での薬剤管理指導業務研修を実施するとともに、担当患者に関する症例検討会などに参加する。これらの臨床研修において、以下の項目を到達目標として臨床薬学のスペシャリストとしての専門的な知識、技能、態度を修得する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ カルテや患者インタビューから必要な患者情報を抽出し、データベースを作成して活用できる。 ・ 個々の患者に対して適正な薬物療法とそのモニタリング計画が提案できる。 ・ 医療チームに薬物情報を提供し、チームの一員として薬物療法におけるベネフィット・リスクを評価できる。 ・ 薬物療法における問題点を抽出し、薬学的手法を活用して解決できる。 ・ 医薬品情報に基づき患者に適正な服薬指導ができる。 	集中

授 業 科 目 の 概 要			
(大学院 薬学研究科 薬学専攻 (博士課程))			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
関 連 科 目	海外臨床研修	<p>日本の臨床現場において新しい薬剤師職能の開発ができる専門性の高い臨床薬剤師を育成するためには、先進的な臨床薬学教育が展開されている海外との交流を通して、薬剤師の業務や医療制度に関する先進的な知識・技能・態度を身につけることが望まれる。そこで、米国アラバマ州サンフォード大学あるいはカリフォルニア州南カリフォルニア大学において、2週間の海外臨床研修を実施する。</p> <p>主な臨床研修として、各研修先で開講される薬物治療学関連講義の聴講、各研修先の薬学生やレジデントが行う臨床研修への同行、各研修先の薬学生が行う症例検討会や文献紹介への参加、各研修先で自身が経験した症例のレポート作成と症例検討会での発表などを行う。帰国後は、研修内容の公開報告会を行い、研修レポートを作成する。</p> <p>これらにより、先進的な臨床薬剤師の知識・技能・態度を修得する。</p>	集中